

十名、三庄町は二百五十名に上り、中庄村にも波及して同村にも休校児童が出来たと云ふ。尚ほ同村青年団その他から十八日夜演説會をやること云つて来たので、華議團本部から数名の辯士を送つたと、又工場では廣海汽船會社の新造船廣進丸を十九日未明五時に曳船して大阪櫻島工場に廻航機装することに内命が来た。今一艘三庄分工場に修繕中のジロ丸は殆んど翌夜兼行で外板の取り付け作業を遣つておから取付けさへ済めば曳航してこれと何處かの會社に廻すことになつておるから、これでは一隻もなく存るわけである。

「最後通牒は出してゐない、會社はさういふ」

廣島縣因島の勞資爭議に對して、職工側は會社が最後の通牒的の四條件提出につき協議中の如く吹聴した者があるが、因島工場としては右條件を提出したことは存じと語つてゐる。従つて工場を閉鎖するか否かは、世子工場長が大坂本社に協議中であるが、結局は閉場するものと観られてゐる。爭議團本部では若し閉場を發表すれば職工規程に據つて飽くまで手當を要求する。尚十七日までは各地の勞働組合から物資の救援を受け、おたがそれ位では到底追つかないから、十七日二名の委員が上阪して聯合組合に今日までの経過を報告し、併せて勞働演説會を開くことになつてゐるが、爭議は愈擴大して所謂根氣比べになつてゐる。

生活に苦み出した勞働者側

屢報廣島縣御調郡因島大坂鉄工所の勞働爭議は、勃発以來既に一ヶ月となり、勞働者側は生活上に相當困窮を來した模様で、今面小學校児童五百十餘名を休校せしむるに至つたのも全くこれが爲だが、更に十七日一勞働者の妻、女某が米屋で米若干を密取して土生分署に引致されたのを見ても如何に窮迫してゐるか、知られる。尚小學校児童の同盟休校に對しては、縣當局は一切無干渉主義を執り、暫く御調郡の處置に任せることにした。

六月二十日 大阪毎日 朝聞記事

會社も爭議團も根氣と意地で睨み合ひ 火の消え